



## 第24回夏季デフリンピック競技大会 混合団体戦 銀メダリスト

# かきうち こうへい さん 柿内 康平 さん



【右】混合団体戦以外にも出場し、シングルス・混合ダブルスともにベスト16の成績を収める。

【左】6年目となる鹿屋養護学校では、高等部の教諭を務める。先生の活躍を祝して、生徒の皆さんと撮影。

夏休みに母と姉と一緒に公民館講座に行ったことがバドミントンとの出会いで、小学校3年生からスポーツ少年団に入部しました。生まれつき耳が聞こえにくかったのですが、補聴器をつけることで問題なくバドミントンをすることができました。また、きれいにシャトルに当たった時の音の響きは鮮明で、その音を聞くうれしさや喜びを感じながらプレーしてきました。

私は、小学校から大学まで健常者の大会に出場し、その間インターハイやインターカレッジにも出場しました。デフリンピックの存在を知ったのは社会人になってからです。デフリンピックとは、4年に1度開催される聴覚障がい者のための国際競技大会で、デフリンピックやそれに伴う世界大会では補聴器を外して試合を行うのですが、はじめは音の無い・歓声の聞こえない大会に戸惑ったことを覚えています。また、音が無いとどうしても動きが一步遅れた

り、シャトルが当たったときの音を含めた反応が分かりにくかったりと、これまでと違う感覚で試合を行うことに大変苦労し、改めて音の大切さを実感しました。私は2022年のブラジル大会が2度目のデフリンピック出場でしたが、これまで日本は同大会の団体戦でメダルを取ったことがなかったため、チームは非常に高いモチベーションで臨みました。毎月1回は週末に首都圏を中心に集まって、実業団チームなどと練習。それに加え、私も毎朝5時からジムに通い、そのまま出勤し、夕方遅くまで練習という生活を約1年間続けたことで、団体初となるメダルにたどり着くことができました。

次回の2025年デフリンピック大会は東京で開催されます。シングルスではメダルを取れていないため、選手として出場する機会があれば体が動く限りメダルを目指して頑張っていきたいです。

### information

鹿児島市出身で、現在は鹿屋養護学校の教諭。これまで世界デフバドミントン選手権大会に2度、デフリンピックに2度の出場を果たす。最近では職場の同僚に誘われてゴルフを始める。令和4年度鹿屋市スポーツ表彰を受賞。  
※「デフ」とは「耳が不自由」という意味。